

まえがき

本書『クラウン英語イディオム辞典』は、姉妹編『クラウン英語句動詞辞典』とともに、『三省堂英語イディオム・句動詞大辞典』を基にしたより handy な分冊精選版で、下記の増補改訂を加えたものである。

狭義の「イディオム」は、たとえば cry wolf「虚報を伝える」のようにそれを構成する個々の語（叫ぶ＋オオカミ）からは推測し難い句義をもち、かつ、この2語のいずれも他の語と入れ替えられない語群をいうが、この辞典では読者の便宜を考慮し、give a sigh「ため息をつく」のような特定の名詞が特定の動詞と慣用的に結びつくコロケーション (collocation) も相当数含めてある。これは両者の境界が曖昧であるからに他ならない。

本辞典の主な増補改訂内容は次の3つにまとめられよう。

- (1) 見出しを精選し、できる限り全体をスリム化した
 - ・特殊なあるいは古い句見出し・句義を削除し、up-to-date なものに改めた
 - ・馴染みのない固有名詞や外来語表記を含む句見出しを削除した
- (2) 検索性の向上を図り user-friendly なものにした
 - ・相互参照 (cross-reference) を一層充実させ、引きやすいものにした
 - ・□で示した参考解説を見直し、必要不可欠なものに絞った
- (3) 用例の充実・適正化を図った
 - ・冗長または極端に短いものや古い用例を差し替えた
 - ・句義のみの箇所に、得られる限り簡潔明解で馴染み深い新規用例を追加した
 - ・句例および「新聞見出し・リード、広告文、掲示文」を文例に差し替えた
 - ・PC の点で配慮すべき句例および和訳を適正なものに差し替えた

この辞典の構想が検討され始めたのは、『三省堂英語イディオム・句動詞大辞典』と同時期の2007年に遡る。そして上記『大辞典』の刊行をみたのち本書執筆が開始されたのであるから、完成に足かけ7年が費やされたことになる。この間、編集委員の永田龍男氏には執筆・校正において正に寝食を顧みず全精力を傾注していただいた。また、Paul E. Davenport 氏には全用例を綿密に洗い直しかつ加筆していただいた。これらのご尽力に対してまことに感謝の念に堪えない。更に今回も三省堂辞書出版部外国語辞書第一編集室編集長の寺本衛氏、同編集室の東佐知子氏の有能かつ献身的なご援助および同編集室諸氏の綿密なご助力をいただいた。心から御礼を申し上げます。

思えば『新クラウン英語熟語辞典』(1965)より『三省堂英語イディオム・句動詞大辞典』の集大成を経て、ここに再び書名に『クラウン』を文字通り冠する辞典への回帰をみたわけで、この間 実に半世紀近く、版を重ねること五たびとなる。蓋し感慨無量のものがある。

本辞典が姉妹編たる『クラウン英語句動詞辞典』とともに、これまで以上に数多くの読者に愛され、わが国の英語研究と学習とにいささかでも寄与することができれば、これに過ぐる喜びはない。